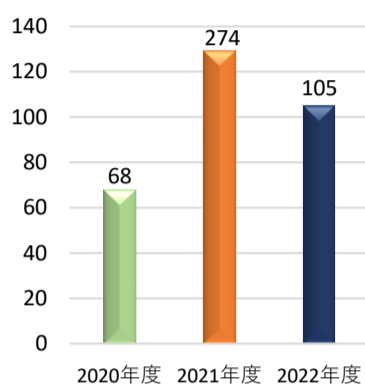


VI. ラピッドレスポンスチーム (RRST)

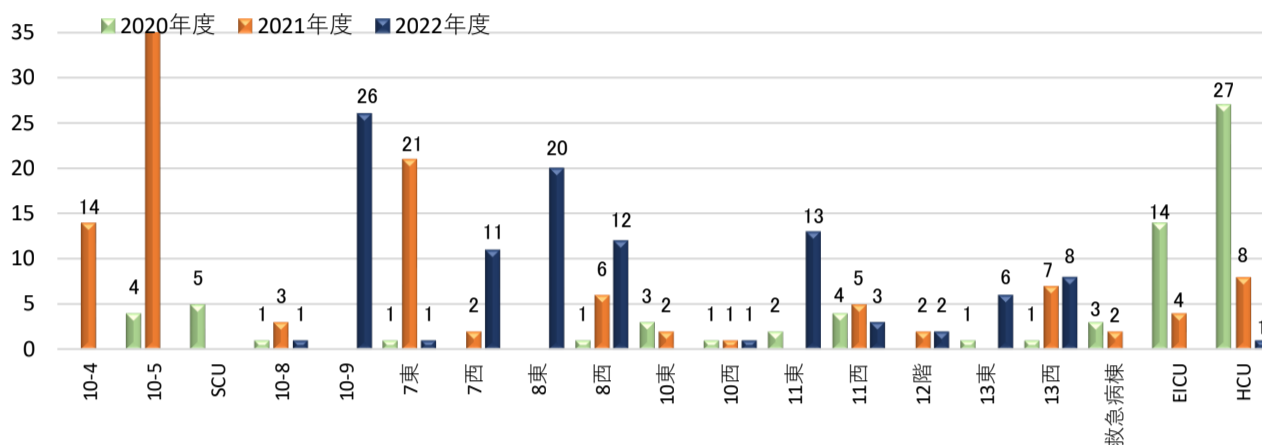


ラピッドレスポンスチームとは、医師、HCU、ICUおよび救急の看護師、医療安全管理部から構成される。RRSTは歴史が浅く院内急変時に対応するMETSと比較するとRRSTの院内の認知度が低い。そのため、2022年度の活動の一環として医療安全のe-learningを通じてRRSTの普及に努めた。RRSTの主な活動は患者さんの状態変化をいち早く察知して、予期せぬ重症化と死亡を未然に防ぐことを目的とする。定期的にRRST会議を開催して症例検討会とRRST介入数の集計を行い、定期的に活動内容をフィードバックしている。重症化しやすい患者の臨床的特徴や、RRSTの介入数を各科、各病棟ごとに統計的に集計して今後のRRST活動の発展と患者の院内急変の減少に務めている。

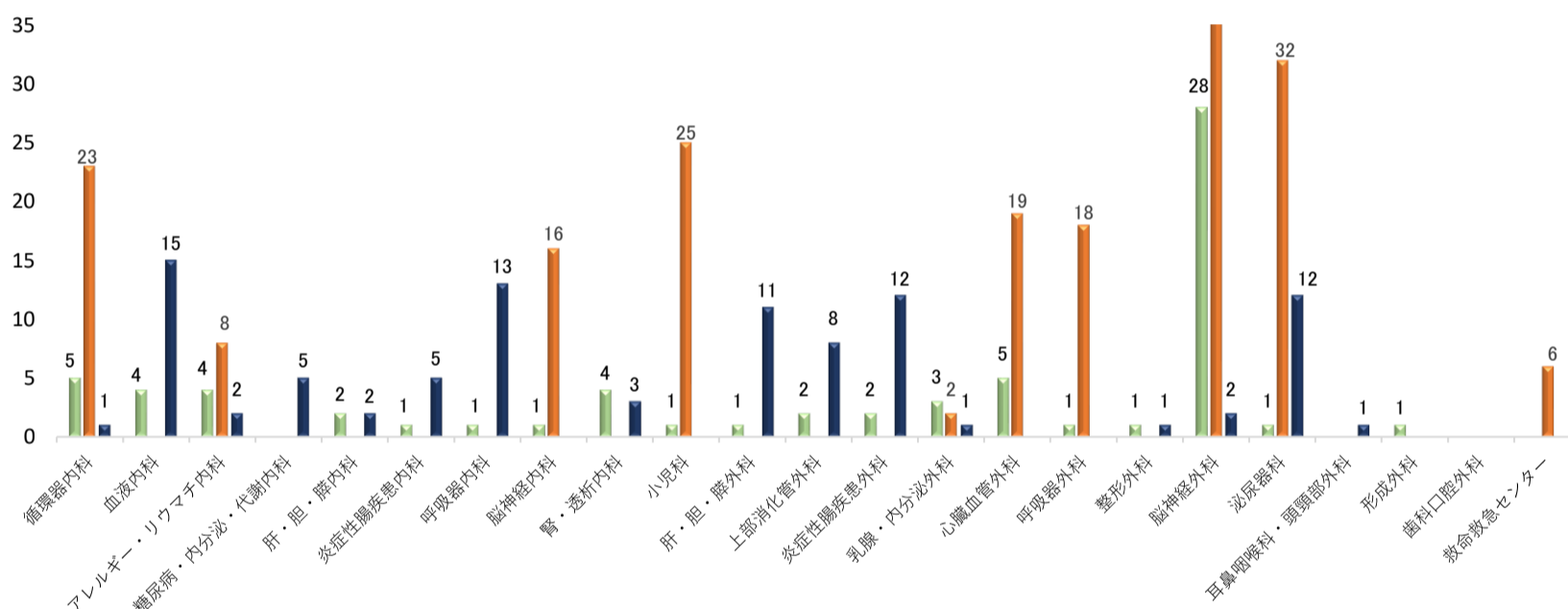
VI-1 RST介入件数推移



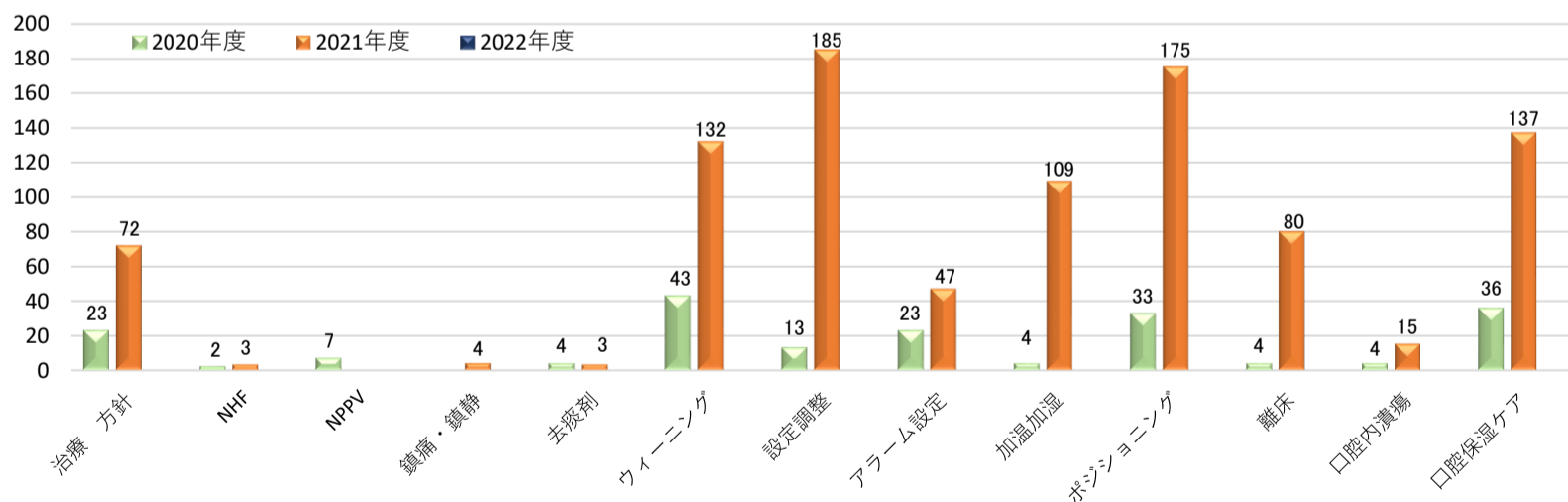
VI-2 病棟別介入件数



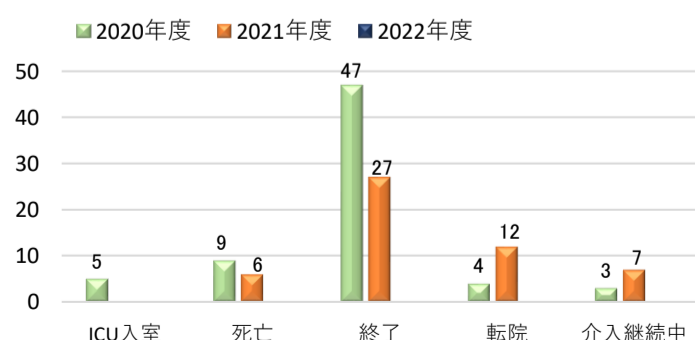
VI-3 診療科別介入件数



VI-4 介入目的別件数



VI-5 介入転帰別件数



ラピッドレスポンスチームとは、患者さんの状態が重症化する前にその兆候を発見し、介入するシステムであり、当院では、本活動が発足して10年が経過した。活動目的は、入院患者さんの「予期しない状態変化による院内心停止」を回避することである。

入院患者さんの予期しない院内心停止を予防するためには、患者さんの状態変化を見逃さず、医師と看護師、多職種が患者さんの状態を共有し、適切な治療・ケアを提供することが重要である。そのため、当院では病棟看護師を対象とした「気づき研修」を行い、看護師の「アセスメント力」の向上から、RRSへの連携を高めている。2022年度の介入に至った最も多い項目は全般事項であり、客観的な数値だけでなく、主観的な「気づき」からRRSを起動し、患者さんの病態の重篤化の予防につながっていると考える。

VI-6 ラピッドレスポンスシステム起動基準

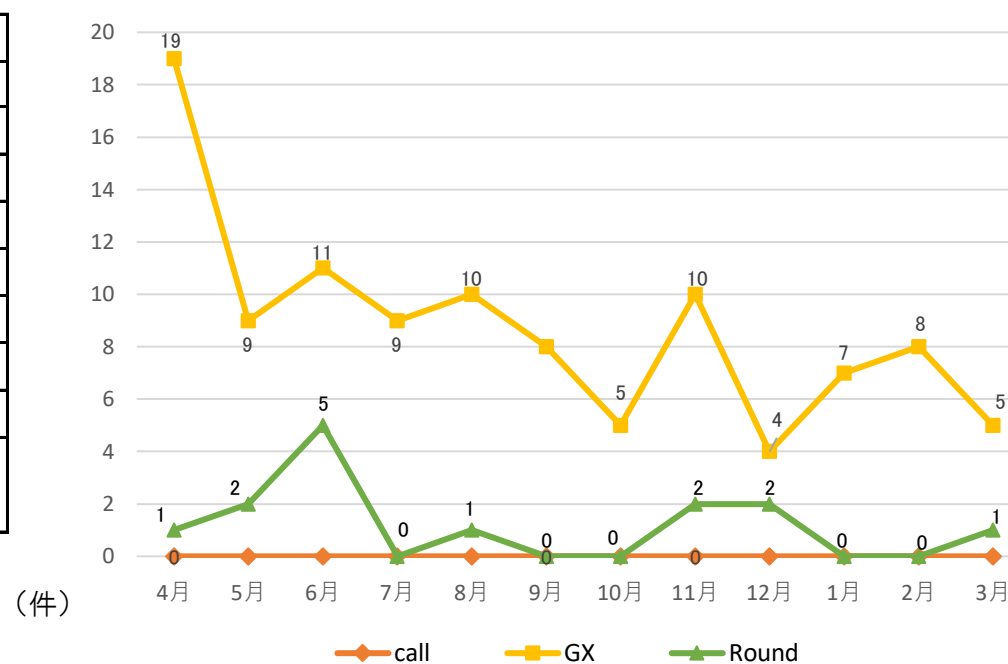
項目	内容	指標	コード
呼吸器系	新たな自発呼吸数の低下	8回/分以下または28回/分以上	Ra
	新たな酸素飽和度の低下	SpO ₂ 90%未満	Rb
循環系	新たな収縮期血圧の変化	90mmHg未満	Ca
	新たな心拍数の変化	40回/分以下または130回/分	Cb
尿路系	新たな尿量の低下	50ml/4H以下	Ua
神経系	新たな意識レベルの変化	GCS・JCSの明らかな低下	Na
		麻痺の出現	Nb
		痙攣の出現	Nc
全般事項	患者に何か気がかりなことがある	例：チアノーゼ、ADLの低下、予想範囲外の吐・下血など	Ga

※14歳以下は対象外

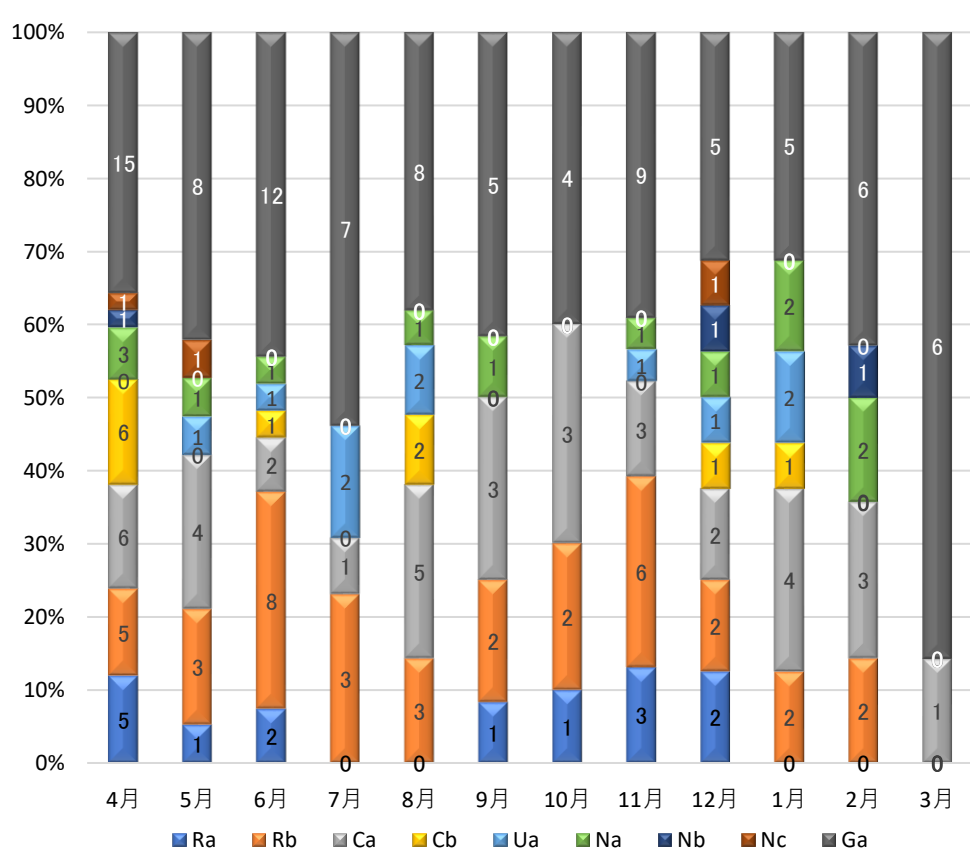
※コール対応は平日8:30~17:00

※ケアに困っているなども気軽にご相談ください

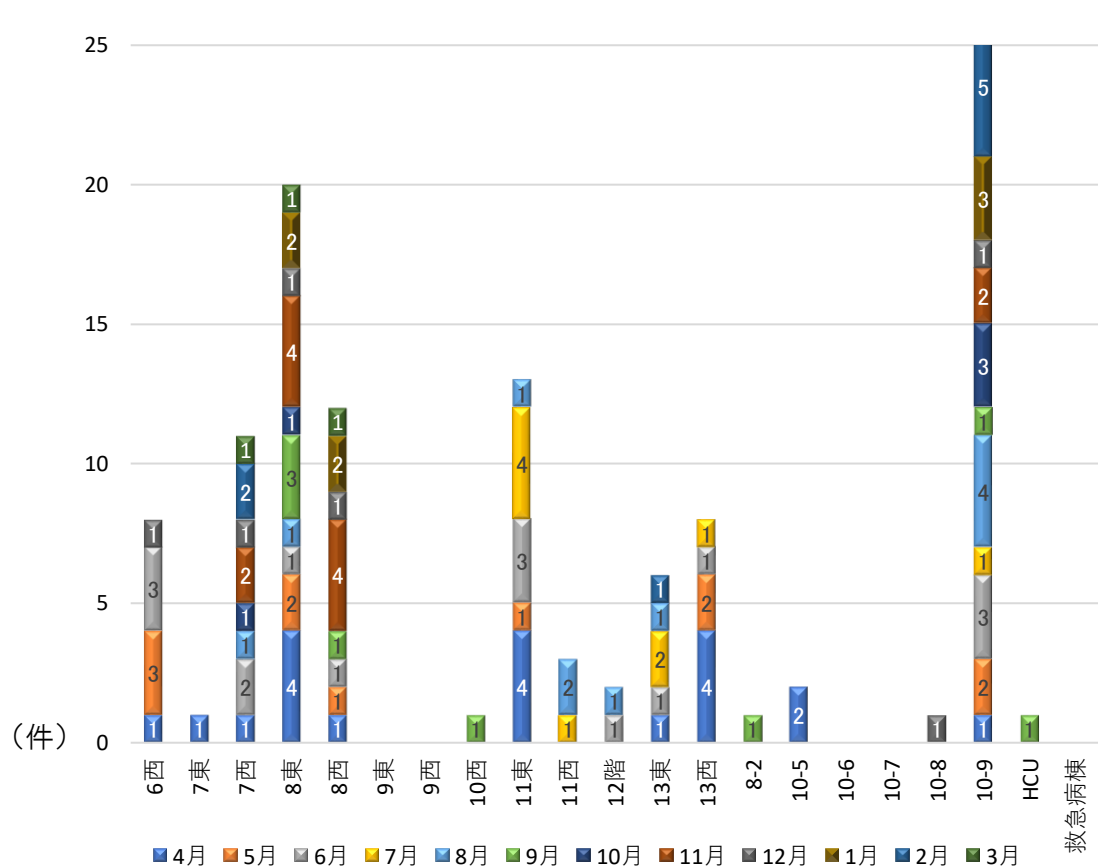
VI-7 2022年度RRS介入総数と介入経路（合計119件）



VI-8 2022年度介入に至ったコード 月別の構成比率（合計220件）



VI-9 2022年度病棟別介入件数（合計119件）



VI-10 2022年度診療科別介入件数（合計119件）

